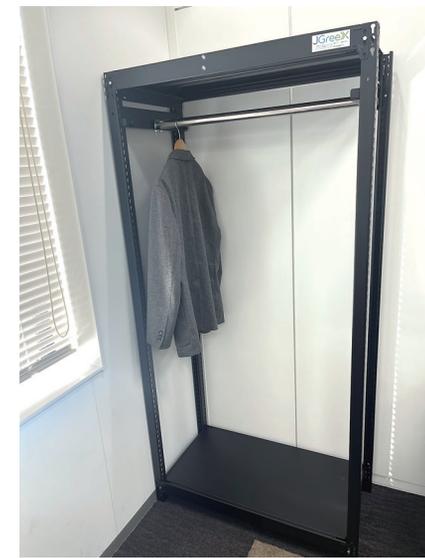


環境配慮型ラックを市場投入

瀬戸内スチール

独立系コイルセンター・鋼製ラックメーカーの瀬戸内スチール（本社・広島県福山市、社長・原田憲太郎氏）は、JFEスチールが展開するGXスチール「JGreenX」を本体に採用した環境配慮型ラック製品を市場投入した。



JFE商事広島市内に配置したハンガーラック

鋼材に割り当てることにより削減した鉄鋼製品。今回投入した製品は、耐重150キ/段の軽量ラ

ック（ボルトレス）と耐重200キ/段の中軽量ラックの計2タイプで、ネジや樹脂類を除く本体の大部分にJGreenXを使用している。同社がJGreenXのコイルを購入し、板厚0・8ミリおよび1・6ミリの薄板を成形加工した柱材や天板などを組み上げて製品化した。初納品先はJFE商事グループのコイルセンターである水島鋼板工業。当面はJFEグループを中心にPRを進めるほか、自治体向け需要の開拓も視野に入れる。

「JGreenX」を本体に採用

製品開発では、営業活動の中で手持ちかばんや取引先への土産物が椅子や床に置かれている場面が多いことに着想。上着を掛けられると同時に手荷物を台に置けるハンガーラックを開発した。このほか、サーキュレーター用の架台も商品化しており、今後もJGreenXを用いた製品開発を進める方針だ。JGreenXは自動車や造船など産業用途での採用が拡大している一方、一般消費材への使用はまだ限定的。価格は通常品に比べ割高となるが、「GX価値への理解を深め、GXスチール普及の一助としたい」（原田大司郎常務執行役員）としている。

